

都市計画マスタープラン策定の目的

- 北広島市都市計画マスタープラン（以下「本計画」）は、社会経済の動向を的確にふまえながら、恵まれた環境を大切に、市民が安全で安心して住み、暮らせる、環境と調和した快適な「北ひろしま」をつくるため、その将来都市像を市民とともに描き、これからの都市づくりを進めるにあたっての市民、事業者、行政などが、互いに連携し協働して取り組んでいくための共通の指針とします。
- 都市計画マスタープランは、20年後の望ましい将来像を定める都市計画の基本的な方針です。

都市づくりの理念

個性あふれる地区が結びついた緑豊かな都市

自然とふれあい 文化をはぐくみ
人びとが紡ぐ交流の絆が 個性ある5つの地区を結ぶ
快適で緑豊かな都市をめざして

都市づくりの目標

- ①既成市街地の都市基盤の有効活用を基本とした、生活環境の質の向上を図ります
- ②緑豊かで快適な生活環境と活力ある都市づくりを進めます
- ③安全・安心な環境のなかで、地区ごとの個性を伸ばし育てます
- ④各地区のつながりを高める交通網の整備を進めます
- ⑤市の中心にある森林と周辺の空間を活用した交流機能の形成を進めます

将来都市構造

都市づくりの理念・目標を実現するため、将来の都市構造を土地利用、都市の軸線、拠点地区・核地区により設定します。

土地利用

・5つの市街地からなる都市地域、市中心部にある広大な国有林をはじめとする森林地域、多面的な機能をもつ農業地域が調和した都市づくりを進めます。

都市の軸線

①交通軸

・J R千歳線、道央自動車道および主要幹線道路を市内外の人びとの交流を支える広域的な交流軸と位置づけます。
・各地区から交流の森に至る3路線などを地区間の人びとの交流を促進する軸線と位置づけます。

②緑の軸

・野幌森林公園から国有林、南の里の森林、仁別・三島の森林へと南北方向に連なる緑空間を緑の軸と位置づけ、保全、育成していきます。

拠点地区・核地区

・J R北広島駅周辺は、本市の中核的な拠点地区と位置づけ、本市の顔づくりを進めます。
・5つの地区ごとに、商業・業務施設や文化施設などを中心とする核を位置づけ、地区の住民や情報が集まる地区の核づくりを進めます。



*本計画の目標年次である平成32年（2020年）における人口を、おおむね72,000人と想定します。